おとずれ

日本キリスト教団
松代教会
TEL 二七八―八二五二
FAX 二七八―一一九一
印刷 ハニウ印刷所

聖句

「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。」

（テトスへの手紙二章十一節）

クリスマスの奇跡

松代教会牧師　小林　護

もしも、神様に「たった一つだけ、奇跡をあげるよ」と言われたら、あなたは何を願うでしょうか。そんなものはいらない。ふつうであればいい。そもそも奇跡なんてこの世にあるはずがないじゃないか。ないものねだりをしてもしょうがない…。そんな心の声が聞こえてきそうです。

子どもの頃に、サンタクロースのプレゼントが、いつ来るかと待ちわびていたあの夜は、決してそんなふうには考えませんでした。夜を飛び越えて早く朝にならないかな。そんなことを思った私たちも、すっかり大人になりました。そして、手放してしまったのです。奇跡のおとずれを。子どもから大人へと成長することは、奇跡を諦めるプロセスであったのかもしれません。「奇跡なんてものはさ、たとえあったとしても自分でつかむものなんだよ。頑張れない人間には奇跡なんて起こるはずがないよ。」ずっと、そう教えられてきた私たちですから。

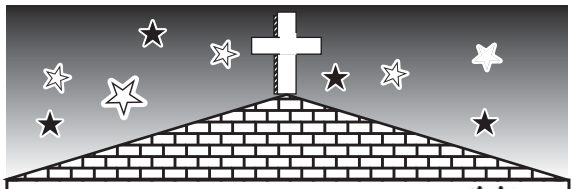
でも、それは本当なのでしょうか。

教会は二千年の歴史の中で、イースターとクリスマスを特に大事にしてきました。イースターはイエス様の復活を祝う日。クリスマスはイエス様の誕生を祝う日。もうひとつの特別の日はペンテコステと呼ばれる、聖霊が注がれて教会が誕生した日です。不思議な共通点があります。それは「息（イキ）」の訪れです。新しいいのちが生まれるために神が用意しておられるイキ。私たちの想像も及ばない、「諦め」という名の針を振り切ってしまう「命のイキ」の訪れを、聖書はもうひとつの言葉で「愛」と表現します。

イエス様がお生まれになったその日。神は私たちの諦めの中に突然、イキを吹き込まれました。やがてイエス（神は救い）と名付けられる神の御子の誕生は、この世界の現実、社会の現実、自分自身の現実に抗えない羊飼いだけに知らされました。羊飼いは基本的に特定の家を持ちません。野営するのが彼らの常でした。そういう貧しさや不安定さを抱える人の中に、神はイエス誕生を知らせます。同時にこの夜は、「家」だけを守ろうとする大人には、神の奇跡が受け入れてはもらえなかった日でもありました。

クリスマスの夜、やがてイエスの父となるヨセフは、身重のマリアのために宿屋を探します。でも、どこも、誰も、貸してはくれなかった。みんな自分の生活のことでいっぱいだったから。でも、神は、そんないっぱいな現実の中にイキを吹き込もうとしたのでした。しかし、拒絶されました。この世界の現実はそんなに甘いものじゃないよ…そんな声がイキを阻んだのです。

キリスト教会で行われるクリスマス礼拝は、二千年前に生まれたイエス様のイキを受け取らせていただく時間として大切にされてきました。自分の家を守



松代教会のクリスマスのご案内

★クリスマス礼拝

12月22日(日)
午前10時15分から

★子どもの教会学校クリスマス礼拝

12月22日(日) 午前９時～

今年のイヴ礼拝は行いません

るために毎日頑張っているあなたがいけないわけじゃない。人を助けたいし、親切にしてあげたいけれど、それができないあなたが悪いわけではない。ただ、そのどうしようもなさを感じながら生きるのが私たちの現実だから、神は、あなたをそこから救い出すためのイキを吹き込みたいと願っておられます。

最大の奇跡は、神の子イエスのイキがすべての人に注がれていることです。そのイキを受け取らせていただくのが教会のクリスマスです。はじめての方も、どうぞ普段着のままお越しください。神の祝福と幸いを心より祈ります。

教会員のページ

アメリカの教会の一面

キャンベル 多 恵

大統領選挙でのトランプ氏当選で、これからのアメリカの行方に不安を感じているのは私一人ではありません。トランプ氏を支持した個人、様々な組織団体、企業、そして教会が今後トランプ政権と共に発言力を強めていくでしょう。アメリカに住む私は、新政権とその支持を表明している教会に複雑な思いになります。

アメリカではカトリックとプロテスタントの他に多数の教派が存在します。その中に「キリスト教福音派」(Evangelical Christian)と呼ばれる人々と教会があります。さらにこの福音派に多数支持を得ているのが「繁栄の福音(神学)」(Prosperity Gospel)という考え方です。経済的豊さや健康は神のみこころであり、宗教活動や寄付(献金)によってさらに物理的に豊かになるという考え方です。近年、この考え方を広めるリーダー(教会)によって多くの人々に受け入れられています。郊外のメガチャーチ（巨大な教会）や移動式の巨大テントの教会などで熱狂的にこの考え方が称賛されます。また称賛するリーダー、牧師も経済的に潤い、その信徒はさらに物理的な祝福を得るため、繁栄の福音について発言することを奨励されます。日本と違うのはそうした信徒や教会リーダーが個人的意見を政治的、経済的な場面でも自由に発言することです。今回の大統領選挙でも論争となったイスラエルへの支持問題、人工妊娠中絶問題、移民問題などに福音派、特に繁栄の福音を信じる人々が意見を発してきました。トランプ氏支持もその一連です。彼らはトランプ政権を支持することが神の御心であると信じています。

繁栄の福音はどこから来ているのか、もちろん様々な専門家が説明しています。私にはアメリカの建国の歴史、特にアメリカの資本主義と個人主義が宗教にも大きく影響していると感じます。テレビ放送で礼拝の様子やリーダーの発言が拡散され、さらに信者が増えます。経済的に豊かになること自体は間違っていませんが、他者(国)の犠牲の上に成り立ってはいけないと思います。アメリカの繁栄だけが大事ということでは世界の平和に貢献することは出来ないでしょう。

キリスト教会は信仰によって成り立っていますが、どのように信仰しているかで様々な教会が存在します。アメリカで生活しているとその様々な形を目にします。社会的に弱い立場の人々のために素晴らしい働きをする教会も数多くある一方で、断片的な聖書の解釈や個人的な都合で排他的な発言の多い教会も存在します。そこが「アメリカはクリスチャンの国」の一言で表現できないと感じるところです。今、世界で起きている戦争でアメリカの兵器と政治的意思が一部のキリスト教福音の考え方から用いられているとしたら、これは神の御心とは思えません。

松代教会は小さな教会ですが、地域にあって幼稚園とともに大切な働きをする教会です。アメリカにいながらも松代教会に支えられていることに本当に感謝しています。繁栄の福音ではなく本当の福音に出会える教会です。

今後アメリカとこの地にある教会が戦争に加担することなく、紛争地域に平和がおとずれるよう祈らずにはいられません。

クリスマスの思い出

吉 沢 良 美

小学一年の時から、導かれるままに日曜朝九時からの日曜学校に通い、毎年皆勤賞や精勤賞をいただいていました。中でも教会クリスマスは、娯楽の少ない時代の子供にとって待ち遠しい一年に一度の特別なものでした。クリスマスが近づき、アドベントの赤いろうそくのすべてに火が灯ると、さあクリスマス。日曜学校ではキャンドルサービスの後、練習を重ねた降誕劇を発表します。

クリスマス行事の中で特に私が忘れられないのは、キャロリングと愛さん会のごちそうです。

キャロリングはイブの夜などに、松代町内の病院や交番、駅などの施設を回ったり、病気などで礼拝を守ることができない方のお宅を訪ね、玄関先でクリスマスの賛美歌を共に歌い、イエス様のご降誕をお祝いするものです。にわか聖歌隊は一ヶ月ほど前から練習を重ねます。当日は夜七時頃に教会に集まり、田中牧師先生の先導で出発。選曲も牧師先生。訪ね先の方の愛唱曲であったり、おなじみの「きよしこのよる」や「もろびとこぞりて」が多かったのですが、私の大好きな曲「まきびとひつじを」が選ばれるとうれしくて、はりきって歌っていた幼い自分の姿が蘇ります。玄関先に出てこられた方は最初は少し

恥ずかしそうですが、終わり頃にはニコニコ笑顔で、『共に 祝い、共に喜ぶ』感動を味わうことができたような気がします。

五～六箇所を回って冷え切った体で教会に戻ると、旧園舎の一室はポカポカに暖められ、なんと弘子先生が準備してくださったカップヌードルから湯気が上がっています。熱々の麺をいただき、心もお腹も満たされた忘れられない大切な思い出です。

もう一つの思い出は、クリスマス礼拝後の愛さん会のごちそうです。婦人会の皆さんが、当時見たこともないようなハイカラなお料理を準備してくださいました。具だくさんのミネストローネ、ゆで卵の入ったミートローフ、ひいらぎが飾られたリース型のサラダ、弘子先生特製牛乳かん（カルピス原液が少しかけてある）、そしてもちろん山西さん特製のクリスマスケーキ！約五十年経ってもあの頃の豊かな食卓が目に浮かびます。（食いしん坊過ぎましたね？）

クリスマスは教会へ。皆さんとともに イエス様のご降誕の喜びを分かち合うことができますように。

「クリスマス」といえば

山口浩子

もみの木のツリー、ベルのついたリース、サンタさんが届けてくれるプレゼント、みんなで分けるケーキ、友人と交換するカード、キャンドル握ってキャロリングと色々連想できますが、幼稚園でのページェント（降誕劇）が思い出される一番初めのクリスマスかもしれません。イエス様が生まれた時の物語を音楽劇でさくら組（年長）全員で演じました。登場するのはマリア様、ヨセフ様、三人の博士、天使たち、羊飼いと羊たち、色々な配役の中で三番目の宿屋さん役でした。歌で物語は進むので特別セリフもないし目立つ役ではありませんが、今では三番の親切な宿屋さんでよかったと思っています。卒園から四十年以上経つ今でも、ほぼ同じ形でページェントが演じられていることは驚きでもあり、受け継がれている伝統が嬉しくも感じています。今年もクリスマスに向けて一生懸命練習している園児たちのように、私も何かクリスマスの準備を始めようと思います。

オルガン奏者として五十年

竹内豊子

小学生時代からピアノが大好きだった私は、二十一歳の時に松代幼稚園教師に就任することになり、当時園長の宮崎創牧師からピアノとは異なるオルガンの弾き方を教えて戴き松代教会のオルガン奏者も引き受けるようになりました。

二十二歳で田中嘉雄牧師により洗礼を授かり その後、飯田市の入舟幼稚園に三年間勤め、入舟教会のオルガン奏者としてお努めしました。

結婚して名古屋で数年間過ごした後長野には三十一歳で戻り松代教会へは数年後に復帰しました。

田中牧師先生が退任され木原盛行牧師先生が就任された頃は、四人の子育ての真っ最中で教会にも通いきれない時もありましたが、オルガン奏者が私一人だけという時期もあり、何とかお役目を頑張り、気づいてみたら五十年も経っていて驚いています。

今こうして振り返って思うことは本当に大勢の方々に支えられて来たという思いです。

オルガン奏者として何も知らなかった私に宮崎創牧師先生から二年弱、当時篠ノ井教会牧師の久世望先生には十年以上教会のオルガン奏法を、他の教会のオルガン奏者の方々と共に学ばせて頂きました。素晴らしい先生のご指導の下、キリスト教の東海教区の会議や婦人部の大きなイベントなどのオルガン奏者として、緊張しながらもお役を努めさせて戴いたことを思い出します。

北信分区主催研修会にも何度か出席し勉強する度、オルガン奏楽者としての役割を重く受け止めるようになっていきました。

その後高齢になるにつれて、目の病気も手伝い楽譜が見えにくくなったり、何本かの指の不調で曲がったまま関節でキーを押すようになり、オクターブまで指は開かなくなりました。こんな指だから完成するまで何度も練習を重ねているのですが本番でミスが出ると自信が持てなくなり泣きたいほど辛く思う時もありました。

そんな時、礼拝後「とても良かったよ」と声をかけて下さる人がいて励みになったり、主人は「間違いは全く気にならない」と言ってくれて少し安心したりしましたが、本当の私の辛さはイエス様が分って下さっていることを信じて力を頂き、次に繋げていくことが出来ました。

心を込めて演奏した時に教会員の皆さんと賛美への思いを分かち合えたと思う時、奏楽者として幸せを感じる瞬間が何度もありました。

今年度から新たに小林護牧師先生が着任されました。

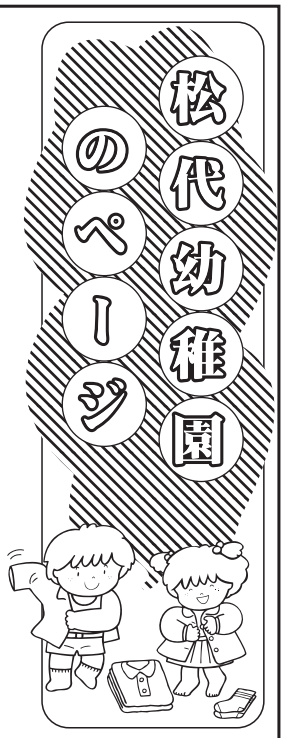
私はオルガン奏者を降り、一つの区切りをつけることが出来ました。

神様の愛と御恵みとそれを受けた暖かい周りの方々に包まれて私は幸せ者と感謝しています。

五十年間のオルガン奏者の私を支えて下さり有り難うございました。

▲　松代幼稚園劇遊びより

松代幼稚園のページ



松代幼稚園の思い出

保護者　白石美香

長女の入園から長男・次女と三人の子供達と一緒にお世話になり気づくと八年もたっていました。松代幼稚園へ子供を送っていくと子供と一緒にいつも笑顔になる。そんなあたたかい園でした。卒園した長女・長男を連れて行くと必ず「大きくなったね」など声をかけてくださります。子供はちょっと恥ずかしがりながら嬉しそうにしています。それぞれに大好きな先生がおり「今日は○○先生に会えるかなあ？」とワクワクしながら一緒に幼稚園にいっています。

クリスマスといえばページェント。幼稚園で練習がはじまると、我が家でもページェントがはじまります。誰かが歌を歌うとみんなつられて歌いだします。「私○○の役やる！」「僕は○○！」とどんどん役が決まり３人だけのプチページェントが開催されます。少し歌詞が違ったり、好きな場所は三人で一緒に演じて笑い合ったり、合唱したりとても賑やかな時期です。幼稚園のページェントと共に毎年この季節の楽しみになっています。

残り数か月で子供と共に松代幼稚園を卒園します。長いようで短かった幼稚園生活。思い返すと本当にたくさんの事がありました。嬉しかった事、困った事など沢山先生にお話ししていました。こんな事聞いてもいいのかな？と思うこともありましたが、どんな小さな事でも相談するとすぐに対応していただき解決をしてくださいました。子供三人同じように育てているはずが、一人一人個性があり、どうしたらよいのか悩む日々。大好きな幼稚園に「行きたくない」と言われてしまい途方に暮れてしまった時も先生方の愛情とご指導のおかげで乗り越えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

松代幼稚園を先生方の笑顔と共に過ごしたわが家の三人の子供たちは皆小学生になります。小学校でも松代幼稚園で学んだ「優しい気持ち」や「頑張る力」を胸に、「光の子」としてきっと前を向いて歩んでくれると思います。私たち親も先生方に教えていただいたように、暖かく見守り子供達の成長を支えていきたいと思います。

最後に、先生方への感謝の気持ちをお伝えし、子供達のためにご尽力していただいたことに深くお礼申し上げます。先生方の笑顔と共に過ごした日々は、ずっと子供たちの心の中に残ると思います。本当にありがとうございました。

松代幼稚園のクリスマス行事について

◎クリスマス礼拝
12月13日㈮

★年長ページェント（降誕劇）公開
12月23日㈪　14：00～14：30
（どなたでもご覧になれます）

★こひつじルーム（未就園児）
・12月10日㈫　9：30～11：30

★卒園生クリスマス
（小学生のみ）
・12月14日㈯
9：30～11：00

「幸せ」

主幹教諭　小田切栄子

二十九年間松代幼稚園でお勤めになられた木原先生ご夫妻がご退職され、新しく小林護園長先生をお迎えして松代幼稚園の二〇二四年度のあゆみがスタートしました。昔から築いてきた『神様の大きな愛の中での温かな保育』の土台をもとに、再出発の一年でした。

春には親子遠足、夏には年長の特別保育、秋には松代体育館での運動会や大型バスに乗って茶臼山動物園に秋の遠足にも行きました。コロナ禍が明け、例年と同じように 行事が行え、子ども達とたくさんの楽しい経験ができました。そして、十一月には、劇遊びを行いました。松代幼稚園では毎年、一冊の絵本を読み深めその世界を広げ、全園児で劇遊びを行っています。背景の絵を作ったり、絵本の中の人物になってその心の変化を考えたり、歌やダンスで表現したり、リトミックや運動遊びで表現したり。子ども達も保育者もみんなで楽しんで行っています。そんな劇遊びも今年で十九回目を迎えました。今年は「にじいろのさかな」という絵本をもとに活動しました。虹色に輝くうろこを全身にまとったにじ魚は、その美しさを鼻にかけ いつも威張っていました。そのせいで友達も無く世界で一番美しい魚なのに、いつもひとりぼっち。世界で一番悲しい魚。ある日タコのアドバイス通り、うろこを欲しがっている他の魚たちにあげることにしたのです。自慢のうろこがなければ幸せになんてなれるわけがないと思っていたにじ魚でしたがうろこをあげる度、温かな気持ちになっていくのでした。「幸せ」とは何でしょう。他の人より優れたものを持っているということでしょうか。人と人とが繋がりあい、喜びや悲しみを分かち合える仲間の存在あってこそ幸せを感じられるのです。神様は一人ひとりに賜物をくださっています。その賜物を活かし、いつも感謝の心を持ち生きていきたいと思います。子ども達と幸せについて改めて考えることができました。これからも人を幸せにできる温かな保育を目指し、歩んで行きたいと思います。

（写真は３ページにあります。）